

A*C 2017

仙台 Round

2017 .8.19 (Sat.) 14:00 -17:00

会場: **TRUNK** -Creative Office Sharing- (仙台市若林区卸町2-15-2)

対象者: 学術資料の保存・活用に関係する **研究者・司書・学芸員、**
デザイナー／クリエイター／作家・興味関心を有する市民

私たちの住む地域にある博物館や図書館には、数多くの貴重な学術資料が展示・所蔵されています。A*C2017では、ふだん目の目を見ることの少ない学術資料に、デザイナー／クリエイター・作家の手による創造性の光をあてて、新しい活用の姿を探りたいと思います。そのための第一歩として、資料を保存する側と資料を活用したい側が互いに理解を深め、検討を始めるための交流の場を設けることにしました。今回の仙台Roundでは、前回の札幌Roundに引き続き、資料の保存・研究に携わる研究者と地域で活躍するデザイナー／クリエイターが交流するとともに、商業的な(“仙台あきんど”な)視点からの学術資料の可能性についても議論を行う予定です。興味・関心のある方の積極的な参加をお待ちしております。



博物館グッズの事例

◎プログラム

1. 趣旨説明・ご挨拶
2. 話題提供
3. 事例紹介
4. パネルトーク

堀井 洋 (合同会社AMANE)
安田 容子 (東北大学災害科学国際研究所)
松井 健太郎 (とうほくあきんどでざいん塾) ほか
上田 啓末 (合同会社AMANE)

◎パネリスト

堀井 洋 Horii Hiroshi

1973年神奈川県生まれ。仙台育ち。合同会社AMANE代表社員。学術資料の調査・研究・活用に学術ベンチャーの立場から取り組む。北陸先端科学技術大学大学知識学研究科所助教などを経て、2009年に合同会社AMANEを設立。これまで、古文書や機器資料・民具など、地域に残る学術資料の調査・研究に取り組んできた。

安田 容子 Yasuda Yoko

東北大学災害科学国際研究所。宮城県生まれ、京都市育ち。人が動物をかたちとしてどのように表現し、利用してきたのかという点に興味を持っている。また、動物を含め、ものを集めて残すことにも興味を持つ。特にねずみを対象に江戸時代人とねずみの関係を絵画や文芸などの表現から読み解く研究を行っている。個人所有の美術品やコレクションを地域に位置づけるための研究にも取り組む。

松井 健太郎 Matsui Kentaro

1980年福島生まれ。仙台育ち。エディトリアルデザイナー。東北大学大学院工学研究科 都市建築学修了。グラフィックデザイン事務所schtüccoを経てシェアオフィス「TRUNK」勤務。現在、デザインオフィス株式会社BLMU代表取締役。建築・プロダクト・グラフィックなど分野にとらわれないものづくりを中心に、地域とクリエイターを結ぶ活動も展開中。2010年よりとうほくあきんどでざいん塾コーディネーター。2013年より東北学院大学非常勤講師。

上田 啓末 Ueda Hiromi

1975年生まれ、和歌山県出身。合同会社AMANE研究員。デジタルアーキビスト。作品制作の経験(日本画及び映像)を持ち、デジタルアーカイブが広く芸術と教育に活用されることを願い、制作者から転身する。現在は学術資料の調査・研究とデジタルアーカイブ、そのメタデータの活用に携わる。広島市立大学芸術学部協力研究員、学校図書館メディア助手などを経て2014年より現職。

A*C仙台 参加申込先: ac-office@amane-project.jp

お名前、ご職業をご記入ください。Facebook ページでもお申し込みできます。

